

酒造りのまち西宮市でガラスびんリサイクルを視察

大洋州等島嶼国の行政官が資源循環型社会への取り組みを学ぶ

6月末に開催されるG20大阪サミットで、主要議題として取り上げられる廃棄物問題。開発途上国の中でも、特に島嶼国では、従来、消費されていなかった物が都市化や生活様式の変化により国外から持ち込まれ、その不適切な廃棄物処理が海洋等の環境汚染や生態系の破壊を引き起こしています。

国際協力機構関西センター（JICA 関西）は、NPO 法人こども環境活動支援協会（LEAF）のご協力により、6月10日から7月6日まで、島嶼国固有のごみ問題改善と循環型社会を目指し、廃棄物処理の実務にかかわる途上国の行政官を招聘し、日本の固形廃棄物対策、リサイクル、環境教育などを学ぶ「廃棄物管理能力向上（応用、計画・政策編）（A）」研修を実施しています。

6月26日は、古くから酒造とともに清酒びんのリサイクルが行われてきた西宮市で、大正時代からガラスびんのリサイクルを行う山一商会を研修員が訪問し、リサイクルびんの原料となるカレット製造過程を視察し、異物除去作業を体験します。熱心に学ぶ研修員への取材とインタビューを是非、ご検討ください。

研修員： 5か国5名

（サモア、トンガ、バルバドス、ミクロネシア、東ティモール）

日時： 2019年6月26日（水）14：30-15：30

場所： 株式会社 山一商会 本社（西宮市津門大塚町）

通訳： 日本語⇄英語（逐次通訳）



研修員が異物除去作業体験(写真提供:LEAF)

取材をいただける場合は、前日、午後4時までにご連絡をお願いします。

【本件に関する問い合わせ先】
JICA 関西 業務第1課 魚津 瑞穂
TEL 078-261-0383 e-mail : Uotsu.Mizuho@jica.go.jp